

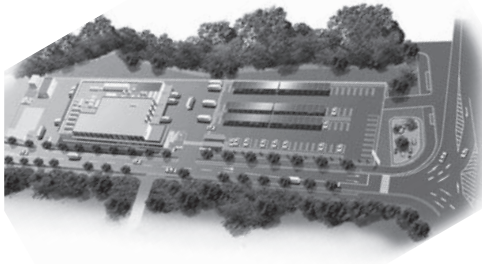
問2

食物アレルギー対応については、どのように考えているのか。

答

現在は、本市の「学校給食における食物アレルギー児童生徒への対応マニュアル」に基づきアレルギー対応を行っている。

新しい給食センターでは、専用のアレルギー調理室を整備し、現在行っている対応に加え、一部のアレルギー（卵と牛乳・乳製品）においては、代替食の調理を行うことが可能となり、児童・生徒ごとに個別の専用食器などを使用し、より安全・安心なアレルギー対応が実施できるものと考えている。



(仮称) 東部給食センターの完成予想図

三好和彦議員



(議案質疑)

1 動物愛護推進事業について

2 避難行動要支援者支援事業について

(一般質問)

1 災害時におけるペットの避難について

動物とのよりよい共生へ事業実績と今後の取組は？

問

不妊・去勢対策の成果やマイクロチップ装着に係る事業の実績はどのようなになっているのか。

また、この事業を通じて、今後、解決すべき課題についてどのように取り組むのか。

答

令和6年1月末現在の飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助については、手術終了若しくは申請中が83

件となっており、補助額は54万5千500円である。令和5年度の成果として、飼い主のいない猫の減少や健康状態の向上の具体的な効果は確認できていないが、83匹が避妊手術を受けていることから、今後一定の成果が出てくるものと期待している。また、マイクロチップ装着費補助金については、7件の申請があり、補助額は1万3千800円である。

今後の取組として、不妊去勢事業については、周辺住民にも配慮しつつ、飼い主のいない猫たちが終生地域で過ごすことができるための見守りの協力を申請者に依頼したい。また、マイクロチップの装着については、盗難や迷子、災害時に逸走した動物の所有者などの特定を容易にするという利点を説明し、普及啓発の強化と併せて事業の紹介を行っていききたい。

誰一人取り残さない

避難計画の作成を！

問

本市の個別避難計画の作成率が低いが、この状況をどう捉えているのか。

また、災害時に本計画が実際に機能するための訓練計画や対策についてどのように考えているのか。

更に、災害時における要支援者の安全確保のため、具体的にどのように取り組んでいくのか。

答

個別避難計画の作成率低迷の原因としては、要支援者の状況把握や関係者との調整、支援者の確保に時間と労力がかかることなどが挙げられるが、要支援者の支援を実効性のあるものにするためにも、計画の作成を促進する必要がある。

令和5年度の市総合防災訓練では、訓練参加者の協力を得た要支援者の受入訓練などを実施したが、今後も要支援者のための避難訓練などを実施することを実行委員会に提案していききたい。

引き続き、共助の要である、自治会や民生児童委員などの協力を得るとともに、新たに福祉専門職などの参画も得て、計画の作成を促進し、要支援者の避難支援体制の充実に努めたい。

自民クラブ

藤田節雄議員



(代表質問)

1 公共施設等の管理について

2 水産業の振興について

施設の適正管理により持続的なサービスの提供を

問

本市では、公共施設の再編や長寿命化などの方針を示した個別施設計画（第1期）を作成し、各施設の適正管理に取り組んでいるが、計画の進捗や施設などの売却の現状、今後の方針はどのようなになっているのか。

また、公共施設の維持・更新などに係る財源確保の見通しについてはどのように考えているのか。